

令和4年度 第3回公立鳥取環境大学経営審議会 議事要旨

- 日時 令和5年1月25日(水) 14:00～15:20
- 場所 大会議室(Webexによるオンライン会議)
- 出席者 江崎信芳委員、西山信一委員、小林朋道委員、田中洋介委員、若原道昭委員、
児嶋祥悟委員、澤志郎委員、林昭男委員、山田修平委員
[9名/10名]
北野彬子監事、山崎安造監事[2名/2名]
- 欠席者 米田裕子委員

【議事】

1 前回議事要旨の確認

原案のとおり承認された。

2 審議事項

(1) 令和5年度当初予算の編成について(案)

事務局から、令和5年度当初予算の編成について説明があり、原案について承認された。

〈主な意見等〉

- ・ 予算編成の概要、収入予算について「自己収入以外の外部資金の獲得に努め」とあるが、収入予算を見ると受託共同研究なり寄附金は大した額ではない。この辺りをどうするかという発想は有るのか。

→ 大学としても科研費の取得に向けた取り組みや共同研究に力を入れて進めている。

予算に対する編成の考え方、現段階で中身の固まってきたものを概算ということでお示ししている。収入の目的積立金取崩収入は、現在、鳥取市が環境省の脱炭素先行地域に申請予定で、本学も共同事業の申請者という形で準備している。採択されれば、その中で省エネ、再エネに係る補助事業があるがそれが調整中となっている。また、来年度の補正で対応する。

- ・ 光熱水費が1.8倍になるということだが、全体の規模感、いくらがいくら位になるのか。

→ 令和2年度29,000千円、令和3年度35,000千円(冬が寒く暖房費が高む)、令和4年度の見通しは62,000千円程度。来年度の見通しは約110,000千円程度かかる見込み。

3 報告事項

(1) 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科と鳥取大学大学院連合農学研究科との連携について

事務局から、公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科と鳥取大学大学院連合農学研究科との連携について報告があった。

〈主な意見等〉

- ・ 学生は、鳥取大学の所属になるのか。何か問題が起きた時にどこのシステムで問題に対処するのか。また、予算等はどうか。

→ 指導教員は、鳥大の客員教員になる。鳥大は本学の教員には給与を支給しない。予算の範囲で研究費が配分され、予算の執行は環境大で行う。環境大で授業を受ける学生の身分は、環境大で定める。博士課程になると特許に絡む財産権の問題が発生する。研究成果の帰属は、鳥大と環境大で協議する、という協定案で調整中。

学生の事故に対しては、鳥大側の傷害保険、付帯する賠償責任保険に加入する等検討中。次回の審議会で協定書についてお示しする。

- ・昨年、私立大学は設置基準が変わって専任教員を基幹教員としてダブルカウントできるようになったが、国公立ではどうか。
→設置基準の変更は、大学全てに適用されるので、私学だけではなく国公立にも適用される。

(2) 令和4年度公立大学法人公立鳥取環境大学監事監査計画

北野監事から、令和4年度公立大学法人公立鳥取環境大学監事監査計画について報告があった。

〈主な意見等〉

- ・監査は、今後、教学監査もお願いするようになってきているが、教員・研究について監事の立場からどのように監査するのか教えて欲しい。
→今までと違った特別なことを考えているわけではない。個人的に力を入れた方が良いと思っているのは、不祥事（セクハラ、アカハラ）が起こっていないということで、見落としていないかという視点で監査することが重要ではないかと考えている。いろいろと考えていきたい。

(3) 近況報告

事務局から、近況について報告があった。

4 閉会